作成日　2006 年　4 月 26 日
改訂日　2025 年　5 月 30 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称　：　サンケイジーファイン水和剤
供給者の会社名称，住所及び電話番号
会社名称　：　サンケイ化学株式会社
住所　：　〒110-0005　東京都台東区上野 7 丁目 6-11(第一下谷ビル)
担当部門　：　開発部
電話番号　：　03-3845-7951
ＦＡＸ番号　：　03-3845-7950
緊急連絡先　：　同上
整理番号　：　B －　39
推奨用途及び使用上の制限　：　農薬

2. 危険有害性の要約

化学品のＧＨＳ分類

物理化学的危険性	可燃性固体	：	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	：	区分 4
	急性毒性(経皮)	：	区分に該当しない
	急性毒性(吸入)	：	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	：	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：	区分 2A
	呼吸器感作性	：	分類でない
	皮膚感作性	：	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	：	区分 2
	発がん性	：	区分 1
	生殖毒性	：	区分 2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	：	区分 2(全身毒性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	：	区分 1(呼吸器) 区分 2(肝臓)
	誤えん有害性	：	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期(急性)	：	区分 1
	水生環境有害性　長期(慢性)	：	区分 1

上記に記載がないものは、「区分に該当しない」か「分類できない」である。

ＧＨＳラベル要素
絵表示　：

注意喚起語　：　危険
危険有害性情報　：　H302　飲み込むと有害
H319　強い眼刺激
H341　遺伝性疾患のおそれの疑い
H350　発がんのおそれ
H361　生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
H371　臓器の障害のおそれ
H372　長期にわたる、または、反復ばく露により呼吸器の障害
H373　長期にわたる、または、反復ばく露による肝臓の障害のおそれ

作成日　　2006 年　4 月 26 日
改訂日　　2025 年　5 月 30 日

危険有害性情報　：H400　水生生物に非常に強い毒性
H410　長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き　：【安全対策】
P201　使用前に取扱説明書を入手すること。
P202　すべての安全注意を読み、理解するまで取扱わないこと。
P260　粉じん／ミスト／スプレーを吸入しないこと。
P264　取扱い後は手をよく洗うこと。
P270　この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
P273　環境への放出を避けること。
P280　保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

：【応急措置】
P301+P312　飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。
P330　口をすすぐこと。
P305+P351+P338　眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337+P313　眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
P304+P340　吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P314　気分が悪い時は、医師の診察／手当てを受けること。
P308+P313　ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
P391　漏出物を回収すること。

：【保管】
P405　施錠して保管すること。

：【廃棄】
P501　内容物や容器は、当該規則に従い都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して、適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：混合物

化学名又は一般名	含有量
無水硫酸銅	30%
炭酸水素ナトリウム	46%
鉱物質微粉　界面活性剤　等	24%

危険有害成分

化学名又は一般名	含有量	CAS No.	化管法管理番号	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
無水硫酸銅	30%	7758-98-7	1-272	1-300	―
炭酸水素ナトリウム	46%	144-55-8	―	1-164	―
結晶質シリカ	10%以下	14464-46-1 14808-60-7	―	―	―

4. 応急措置

吸入した場合　：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪い時は、医師に連絡する。

皮膚に付着した場合　：多量の水と石鹸で洗う。皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察／手当てを受ける。

眼に入った場合　：水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受ける。

飲み込んだ場合　：口をすすぐ。気分が悪い時は、医師に連絡する。

作成日　2006 年　4 月 26 日
改訂日　2025 年　5 月 30 日

5. 火災時の措置

適切な消火剤　：　水、強化液、泡、二酸化炭素、ハロゲン化物、消火粉末

使ってはならない消火剤　：　ー

火災時の特有の危険有害性　：　火災時に、刺激性または毒性のガス（ヒューム）が発生するおそれがある。

特有の消火方法　：　火災を増大させる危険性があるものを周囲から速やかに取除く。
関係者以外は安全な場所に退去させ、立入りを禁止する。
周辺火災時、移動可能な製品は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合は、周囲に散水して冷却する。

消火を行う者の特別な保護及び予防措置
：　消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク、防護服）を着用する。
消火活動は風上から行い、有毒ガス（ヒューム）の吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項，保護具及び緊急時措置
：　作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入、誤飲を避ける。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項　：　漏出物や汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
：　飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。
付着物、回収物などは、速やかに専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い　技術的対策　：　屋内での取扱いは、局所排気、または全体換気の設備のある場所で行う。
屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。

安全取扱注意事項　：　ラベルをよく読む。記載以外に使用しない。
取扱いは屋外または換気のよい場所で行う。
屋外での取扱いはなるべく風上から作業する。
取扱いの都度、容器を密閉する。
眼、皮膚、衣類に付けないこと。
眼、皮膚等に触れたり、粉じんを吸入したりしないよう適切な保護具を着用する。
みだりに粉じんが発生しないように取扱う。
すべての安全注意を読み、理解するまで取扱わない。
散布する時は、農薬用マスク、手袋、長ズボン、長袖作業衣等を着用する。

局所排気・全体排気　：　「８．ばく露防止及び保護措置」を参照

接触回避　：　「10．安定性及び反応性」を参照

衛生対策　：　取扱い後は手をよく洗う。
汚染された衣服はよく水洗いする。
指定された場所以外では、飲食、喫煙を行ってはならない。

保管　安全な保管条件　：　小児の手の届く所へ置かない。
換気の良いところで、容器を密閉して保管する。
冷暗所に施錠して保管する。
食品や飼料と一緒に保管してはならない。

安全な容器包装材料　：　国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

鉱物性粉じん　：　E=3.0/(1.19Q+1)
E:管理濃度(mg/m^3)
Q:当該粉じん遊離けい酸含有率(%)

作成日　　2006 年　4 月 26 日
改訂日　　2025 年　5 月 30 日

許容濃度
日本産業衛生学会(2023)　：　結晶質シリカとして 0.03mg/m3
ＡＣＧＩＨ(2007)
銅　：　TLV-TWA 0.2mg/m3(ヒューム)、1mg/m3(粉じんおよびミスト)
結晶質シリカ　：　TLV-TWA 0.025mg/m3
設備対策　：　屋内で取扱う場合には、全体換気装置を設置する。
できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
取扱場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
保護具
呼吸用保護具　：　農薬用マスク（防じんマスク）
手の保護具　：　不浸透性保護手袋
眼、顔面の保護具　：　ゴーグル型保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具　：　静電気防止加工長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

物理状態　：　粉末
色　：　類白色
臭い　：　無臭
融点／凝固点　：　情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲　：　情報なし
可燃性　：　情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界
：　情報なし
引火点　：　情報なし
自然発火点　：　情報なし
分解温度　：　情報なし
ｐＨ　：　情報なし
動粘性率　：　情報なし
溶解度　：　情報なし
n-オクタノール／水分配係数(log 値)
：　情報なし
蒸気圧　：　情報なし
密度及び／又は相対密度　：　情報なし
相対ガス密度　：　情報なし
粒子特性　：　情報なし
その他のデータ　：　かさ比重　0.6～0.8

10. 安定性及び反応性

反応性　：　情報なし
化学的安定性　：　常温常圧で安定
危険有害反応可能性　：　粉じん爆発の可能性は極めて少ない
避けるべき条件　：　加熱、湿気、直射日光
混触危険物質　：　情報なし
危険有害な分解生成物　：　情報なし

11. 有害性情報

急性毒性
経口　：　区分 4
ラット LD50　雄　1,847mg/kg
雌　2,589mg/kg

作成日　　2006 年　4 月 26 日
改訂日　　2025 年　5 月 30 日

経皮　：区分に該当しない
ラット LD50　雄雌　>2,000mg/kg

吸入　：データが不足しているため分類できない。

皮膚腐食性／刺激性　：GHS 分類基準以下であり区分に該当しない
ウサギ　軽等度の刺激性

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
：区分 2A
ウサギ　中等度の眼粘膜刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性　：データが不足しているため分類できない。

皮膚感作性　：区分に該当しない
モルモット 皮膚感作性なし

生殖細胞変異原性　：成分の情報より、区分 2 とした。
(成分)
硫酸銅：in vivo および in vitro の各試験において、陽性と陰性の両方の結果があり、分類できないとした。
結晶質シリカ：in vivo 遺伝子突然変異試験(吸入)にて、突然変異頻度の有意な増加が見られたとの報告あり。

発がん性　：成分の情報より、区分 1 とした。
(成分)
結晶質シリカ：日本産業衛生学会の「発がん物質第 1 群」に、ACGIH で評価ランク 2A「ヒトに対して発がん性が疑われる」に、IARC で評価ランク 1「ヒトに対して発がん性を示す」に、NTP で評価ランク K「ヒト発がん性があることが知られている」に分類されている。(区分 1A)

生殖毒性　：成分の情報より、区分 2 とした。
(成分)
硫酸銅：五水和物を用いたマウスの試験において、母動物毒性が生じる可能性が高い用量で奇形を含む発生影響が見られた。(区分 2)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)
：区分 2(全身毒性)
ラット経口急性毒性試験において、円背位、嗜眠および立毛、時折 1,936mg/kg 以上の投与群に呼吸頻度の減少、眼瞼下垂、流涎亢進、運動失調および四肢蒼白が見られた。死亡動物の剖検では 1,500mg/kg の投与群 10 匹中 1 匹に肺の異常な赤色化、肝臓の暗色化、小腸の出血が、1,936mg/kg 以上の投与群 10 匹中 5 匹に、肺の異常な赤色化、肝臓の暗色化、胃粘膜の出血、胃の非腺上皮における出血および腐肉形成、小腸の出血等が見られた。
以上の毒性影響はガイダンス値の区分 2 の範囲内で発現していることから、区分 2 とした。また、標的臓器は特定が困難なため全身毒性とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)
：成分の情報より、区分 1(呼吸器)とした。
(成分)
硫酸銅：1～2.5%の硫酸銅を含んだ防カビ剤の噴霧作業者に珪肺症と類似した所見が見られた。(区分 1／呼吸器) また、ラットを用いた混餌による 92 日間反復経口投与毒性試験において、区分 2 のガイダンス値範囲内で肝臓の炎症の報告がある。(区分 2／肝臓)

誤えん有害性　：データが不足しているため分類できない。

作成日　2006 年　4 月 26 日
改訂日　2025 年　5 月 30 日

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	:	区分 1
魚(コイ)	:	TLm(72h) 0.70ppm
甲殻類(ミジンコ)	:	TLm(24h) 0.86ppm
水生環境有害性 短期(急性)	:	急性毒性が区分 1、水中での挙動が不明なため、慢性有害性も区分 1 とした。
残留性・分解性	:	情報なし
生態蓄積性	:	硫酸銅：ICSC に「ヒトにとって重要な食物連鎖において、例えば魚類で生物濃縮が起こる」との記述がある。
土壌中の移動性	:	情報なし
オゾン層への有害性	:	情報なし

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物	:	関連法規並びに地方自治体の規則に従い、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に廃棄すること。
汚染容器及び包装	:	関連法規並びに地方自治体の規則に従って適切に処理を行うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制	国連番号	:	UN3077
	品名	:	環境有害性物質(固体)、n.o.s.
	国連分類	:	クラス 9
	容器等級	:	Ⅲ
海洋汚染物質		:	該当(水生環境有害性区分 1 のため)
国内規制	陸上輸送	:	道路法等の規定に従う。
	海上輸送	:	船舶安全法の規定に従う。
	航空輸送	:	航空法の規定に従う。
特別の安全対策		:	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 車両、船舶には保護具(手袋、メガネ、マスク等)を常備する他、緊急時の処理に必要な消化器、工具等を備えておく。
応急措置指針番号		:	171

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法

第一種指定化学物質	:	銅水溶性塩(錯塩を除く。)(管理番号：272)銅として 12%含有

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条)	:	銅及びその化合物 結晶質シリカ
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2)	:	銅及びその化合物 結晶質シリカ
がん原性物質(則第 577 条の 2)	:	結晶質シリカ(クリストバライト)、結晶質シリカ(石英)

毒劇物取締法	:	普通物
消防法	:	該当しない
船舶安全法	:	有害性物質(危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1)
航空法	:	その他の有害物件(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)

作成日　　2006 年　4 月 26 日
改訂日　　2025 年　5 月 30 日

道路法	：	該当しない
水質汚濁防止法	：	指定物質(法第 2 条第 4 項､施行令第 3 条の 3)(銅及びその化合物)
水道法	：	水質基準(法第 4 条第 2 項)(ナトリウム及びその化合物)(銅及びその化合物)
下水道法	：	水質基準(法第 12 条の 2 第 1 項)(銅及びその化合物)
海洋汚染防止法	：	海洋汚染物質(法第 38 条 4、平成 4 年運輸省告示 323 号)
農薬取締法	：	登録番号　第 19687 号

16. その他の情報

参考文献

・JIS Z 7252：2019　GHS に基づく化学物質等の分類方法
・JIS Z 7253：2019　GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 ― ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
・独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE-CHRIP)
・安全衛生情報センターモデル SDS
・株式会社カーリット SDS(ＪＣジーファイン水和剤：2024 年 10 月 1 日改訂)

この製品安全データシートは現時点で入手可能な資料等をもとに作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証も成すものではありません。また注意事項は、通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いを行なう場合には自らの責任において用途に適した処置を講ずることが必要であることを理解した上で活用して下さい。